

サンフロント21 懇話会

〒410 沼津市魚町1番地
-8560 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL 055・962・6520

2011.8.16 No.88

2011年度総会

6月6日 会場／沼津東急ホテル

テーマは広域行政、ファルマバレープロジェクトの
推進支援、コンベンション機能、広域観光の促進の4つ。

広域行政では一歩踏み込んだ提言を
川勝知事が記念講演、「県東部の未来像」語る



「サンフロント21懇話会」（代表幹事・岡野光喜スルガ銀行社長）は6月6日、沼津市の沼津東急ホテルで2011年度総会を開いた。会員の企業経営者や首長、県議ら約160人が出席し、広域行政やファルマバレープロジェクトの推進支援、コンベンション機能、広域的な観光振興の促進を掲げた本年度の活動方針案を承認した。議事後、川勝平太知事が「暮らしやすいまちづくり―県東部の未来像」と題して記念講演を行った。

主催者を代表して松井純静岡新聞社・静岡放送社長は「サンフロントも17年目を迎え、これまでの提言が実りつつある。大震災に伴う電力需給の逼迫と経済活動への影響は予断を許さないが、創意工夫で乗り切りたい」とあいさつした。岡野代表幹事

は「活動方針はいずれも現在進行形の課題ばかり。特に広域行政についてはもう一歩踏み込んだ提言をしたい」と強調した。

活動方針案を説明した井口賢明運営委員長は、沼津市と三島市がけん引役になった広域行政の実現に向け、経済団体と共に東部のグランドデザインづくりに着手することを明らかにした。2011年度の活動方針は「広域行政の推進支援」「ファルマバレープロジェクトの推進支援」「コンベンション機能の促進」「富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進」の4つ。懇話会は今後、これらのテーマに沿って研究や提言を行うと共に伊豆、東部、富士の3地区で分科会を開催する。

主催者代表あいさつ

静岡新聞社・静岡放送社長 松井 純



サンフロント21懇話会は本年で17年目を迎え、東部地域の活性化に向けテーマを掲げて取り組んできたことが徐々に実りつつあります。これもひとえに皆様方の大変なご協力のたまものと感謝しております。

3月11日の東日本大震災では地震、津波の被害に加えて原発問題が起き、大きな影響が出てきています。ご存じの通り静岡県も浜岡原発が停止になり、夏場の電力供給だけでなく雇用の問題、地元経済に及ぼす影響など計り知れないものがあります。

果たして浜岡原発が2年後に再開されるのかどうか、これもやはり大きな問題です。電力の需給関係がアンバランスになると、計画停電がちょっとあっただけで伊豆の観光が大きな打撃を受けたように大変な影響が懸念されます。予断を許さない状況が続きますが、創意と工夫で乗り切っていかなければなりません。

本日は総会の後、川勝知事から「暮らしやすいまちづくり―県東部の未来像」という演題でお話をいただくわけですが、大震災の影響を含めて東部のあるべき姿を考えていただければと思います。

懇話会代表あいさつ

スルガ銀行社長 岡野 光 喜



大震災から3カ月、さまざまな影響が危惧されて来ております。私は先週、ロンドンに出張しましたが、海外の目は原発の問題、地震そのものよりも津波のすごさなどに注がれていましたが、最も言及されたのは「日本の政治は一体どうなっているんだ」ということでした。「リーダーが代わらないと日本への投資はできない」という話もありました。世界の投資家は日本の今後について非常に注目しています。

私どもの一番大きな問題はエネルギーではないでしょうか。電力の供給がいかに行われるか否かということがこれからの成長を支えていく上で切り離せない問題になっています。海外の投資家からは何で小さい日本の中で50と60の2つの周波数があるのか、という指摘がありました。確かにそういう議論から始めないと、なかなか日本に投資する気にはならないんじゃないかと思っています。

本日はこの後、総会で活動方針をご審議いただくことになっています。4つのテーマはいずれも現在進行形の課題ばかりですが、広域行政の推進支援については従来よりも一歩踏み込んだ提言ができるように議論してまいりたい。これからもどうぞ皆様のご協力をたまわりまして県東部活性化のためにサンフロント21をご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。

2011年度 活動方針

総会で承認された2011年度の活動方針は、「広域行政の推進支援」「ファルマバレープロジェクトの推進支援」「コンベンション機能の促進」「富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進」の4テーマ。各テーマの概要は次の通りです。

◆◆◆広域行政の推進支援

県東部の市町が競争力あるビジョンを打ち出し、その実現にふさわしい規模となるためには、共通の認識と広域的視点が欠かせない。とりわけ、沼津市と三島市には積極的な共同歩調とリーダー役を期待したい。サンフロント21懇話会は両市を中心とした広域行政の実現に向け、経済団体などと協調し、ランド・デザインの作成に着手する。同時に各市町と連携し、具体的な動きを導き出すための共通の議論の場づくり、住民への啓もう活動に取り組む。

◆◆◆ファルマバレープロジェクトの推進支援

県は2011年度、さらなる研究開発の促進と健康産業の振興・集積に向け、ファルマバレープロジェクトの第3次戦略計画（2011年度～20年度）をスタートさせる。具体的にはものづくり（医療機器など地元企業の研究開発・事業支援）、人づくり（医療人材・産業人材の育成）、まちづくり（医療健康産業クラスター形成など）、世界展開の推進（世界への販路開拓など）が想定される。サンフロント21懇話会は地域産業活性化の支援、沼津市の医療産業都市構想などを含め、ファルマバレープロジェクトを支援していく。

◆◆◆コンベンション機能の促進

2010年11月、東部コンベンションセンター整備事業に関わる企業グループと県、沼津市が基本協定を結び、展示イベント施設、コンベンション施設などの建設に向け、一步を踏み出した。サンフロント21懇話会はコンベンション事業を県東部の未来を切り開く地域戦略として位置づけ、各市町に重要性を訴える。アフターコンベンションなどコンベンションの持つ多様な事業性を活用する方策を検討、協議する。

◆◆◆富士・箱根・伊豆を束ねた広域観光の促進

富士山静岡空港を伊豆への誘客につなげるには、広域的な視点で観光戦略を構築する必要がある。サンフロント21懇話会は静岡・山梨・神奈川3県の広域連携の強化を目指す。特に静岡・山梨両県の官民でつくる日本富士山協会（事務局・山梨県富士吉田市）に協力し、環富士山地域の連携強化を支援する。「富士山一周ドリムウオーク」や、伊豆の一体感醸成に向け、価値ある地形・地質遺産の保全、活用を目指す「ジオパーク構想」など既存事業の周知支援を継続し、一段の観光交流を促進する。

記念講演

「暮らしやすいまちづくり— 県東部の未来像」

静岡県知事

川 勝 平 太 氏



岩手県遠野市を拠点に沿岸被災地を支援◇

東日本大震災が起き、被災地は大変な状況にあります。静岡県は3月17日に全国知事会から岩手県を担当するようにと指示があり、遠野市を拠点に救援活動を展開しています。私の方で勝手に盛岡より遠野の方がよかろうと決めました。歓迎されるかどうかなどは前知事の増田寛也さんに聞きました。顧問ということで岩手県にはよく行っていましたから土地勘もありました。18日には遠野に入れることが分かり、19日に先遣隊を送りました。

遠野ってご存じでしょうか。花巻から東へちょうど50^{キロ}ほど行ったところです。東に釜石があり、その北に大槌町、さらに10^{キロ}ほど北に山田町があります。釜石から南に下りると大船渡、陸前高田があって全部50^{キロ}圏内、扇の要のような位置にあります。それぞれの地域を助けられる拠点です。南の陸前高田から北の山田町まで沿岸部は津波で一網打尽にやられていましたが、災害援助の協定を結んでいた遠野市は庁舎が全壊で救援活動に難渋していました。大槌町や山田町までなかなか手が回らない状況下で本県の者が入って行き、すぐに役に立つことが分かりました。本県の先遣隊が持ち寄った最善、最新の情報を基に私自身が本隊として入ることになり、まず岩手県知事の達増さんにお目にかかって仁義を切り、援軍として指揮系統に入りました。勝手に行くと混乱を増幅することになりますから。遠野市長にもお目にかかって救援活動を本格化し、1週間ごとに20数名のエキスパートを送り続けています。今では静

岡県遠野市といわれるぐらい頼りにされています。

いかに助けているとはいえ、山田町をご覧になれば、それはもう本当に目も当てられないくらい凄惨（せいさん）な状態にあります。あの美しい地域が醜いというと語弊があるかもしれませんが、本当に苦しい状況にある。

あらためて思うのは、そういうことがこの静岡県にも起こり得たということです。そうしたことになるまいようどうするか。危機管理というものをしっかりと心に据えたうえで地域づくりをしていくということになります。

東部、伊豆のキーワードは「美」 美をコンセプトに地域づくりを

東西に150^{キロ}と長い静岡県は大河の存在もあって大きく5つに分けることができます。浜名湖中心の天竜川西部と天竜川以東の志太・榛原・中東遠、それから駿府（静岡）があってこちらの東部、東海道以南の伊豆半島です。自然景観の中でだれもがスムーズに受け入れられる地域単位ではないでしょうか。

西部はモノづくりですが、これからは輸送用機器だけではいけない、レーザーを中心にして光でもってエネルギーを作り上げていくフotonバレーがあります。

志太・榛原は空港ができ、その真南に御前崎港があり、そこから東名、空港、国道1号、新東名と30^{キロ}の連絡路ができて、新幹線は空港の真下を走っている。港と空港、新幹線、高速道路を串刺しにするように結び、今まではお茶しかないと思われがちだったところが交通の便が良くなりま

した。リニア中央新幹線のルートが決まったことで、在来の東海道新幹線は「こだま」「ひかり」の機能が増すことになる。私は富士山静岡空港の真下に県内7つ目の新幹線駅をつくらうと思っています。そして茶畑、お花畑の中にガーデンシティーというようなものがイメージできるような地域になります。

東部と伊豆半島には富士山が借景という強みがあります。東部はファルマバレーで健康、伊豆半島は観光ということ。東部は健康ということがイメージできる土地のパワー、場の力みたいなものがある。伊豆半島は年間数千万人の観光客が訪れます。震災でキャンセル客が30万人ということは、ものすごい数の人が予約をしていたわけです。そのぐらい伊豆の観光は人を引き付ける力を持っている。健康も観光も美しい、両方に共通するのは美です。美を生かして人々を一層引き付けるような地域を作っていこうと思っています。

次に担い手は誰か。西部には浜松市があり、鈴木康友さんがいます。静岡市はどうでしょうか、田辺新市長は康友さんと松下政経塾の先輩後輩の間柄。共に政令市ですので、意気投合されて特別自治市を作ろうとおっしゃっています。特別自治市というのは静岡県の中に浜松県、静岡市県をつくるような構想です。私は大いに自立してやってくれと申し上げています。

静岡と浜松との間にある志太・榛原、中東遠には国、県の力も貸さねばならない。富士山静岡空港はやがて賓客を迎える空港になるだろうと思っています。なぜか、降りれば新幹線ですから。西は名古屋、京都、大阪へ、東は東京へとすぐ便利です。海外からの要人は成田空港を利用していますが、警護の問題一つを取ってみても大変な人とコストと時間を費やしている。富士山静岡空港に降り立ってそこに新幹線駅があれば時刻表通り、時間厳守で移動できる。新幹線ほど安心して乗れるものではありません。

さて東部と伊豆半島はどうするのか。何でこんなにたくさんの市があるのか、何でこんなに市町があるのかということになりますが、間もなく特別自治市が本格的に議論され始めると、現在の都道府県制度を最終的にどうしていこうかという話に必ずなります。県の中に小県、ミニ県ができ、県の役割をどうするかということになってくる。そうすると県は広域の中部圏とか首都圏といった

上方に吸収され、同時に市、町にその権限、財源、人材を下ろしていくことになります。ご承知のように静岡県は権限、財源、人材において権限の下ろし方については日本一です。これは石川前知事の時からですが、そうして基礎自治体の力を付けるようにしている。こうした流れの中で合併の問題もお考えいただかなければなりません。小さなもの同士で調整とか話し合いをやっていると、周りに大きなものができれば、そこにモノと力が劣ることになります。広域的な整備が遅れることにもなりかねない。西部における浜松、志太・榛原・中東遠は放っておいても発達します。それから静岡市も浜松並みに自立をどんどんしていく。私はそれをどんどん推進する。従って東部と伊豆半島はそれをみながら、これから市町が調整をさせていただいて、と思っています。

ファルマバレーに医学部がほしい 長泉出身の早大総長にラブコール

東部は健康が軸と先ほど申し上げましたが、2001年発足の県立がんセンターは山口総長やスタッフ、地域の方々の尽力や協力、また患者本位の診療体制、もちろん長泉町の支援もあって順調に発展し、第一次計画、第二次計画を経て今、第三次計画になっています。

4つの柱を持っています。モノづくり、人づくり、まちづくり、そして世界への発信です。モノづくりでは医薬品や医療機器・器具を作っていく。これは産学官共同でやっていかなければなりません、ありがたいことに早稲田大学、東京工業大、あるいは東京農工大というようなところと一緒に研究されている。だからモノづくりは確実に進むでしょう。

人づくりはどうか、これは慶應義塾大学が大学を挙げてファルマバレーと昨年暮れに契約といたしますか協定を結んでくださっていますので、人づくりもしっかりしていくであろうと思っています。

まちづくりは地域に健康産業があるという観点から取り組む必要があります。そうした中で、最近での一番大きな出来事とすれば皇太子殿下がご視察され、大変感銘を受けられた。皇太子殿下が来られた時に雲がさぁっと引き、光が差し込んで富士山が顔を見せたそうです。眼下には駿河湾を望むことができました。富士山が大好きな皇太子

殿下でございますので、沼津の御用邸からご覧になった富士山の原風景というものをずっと温められ、3年前に富士山に登られて眼下に広がる雲海から昇るご来光をご覧になり、「雲の上（へ）に太陽の光はいできたり 富士の山はだ 赤く照らせり」という名歌を昨年の歌会始でご披露されています。

昨年暮れにはモンゴル大統領夫人がお越しになり、三島に降りられた時、富士山を見て感動されていました。ファルマバレーは、日本の文化のシンボルと共に、医療の問題で苦勞されているモンゴルなどにとってあこがれの的でもあります。イギリスで発行されているネイチャー誌は昨年12月、何と10面にわたりファルマバレーの記事を掲載しました。大変なインパクトがありました。私はファルマバレーという言葉は分かりにくいので変えた方がいいと思っていましたが、もう変えられなくなりました。

一方で県内の病院、医師事情はどうかということですが、人口10万人当たりの医師数は全国平均を下回り、下から数えた方が早い。42位かなんかでしょう。学生数は10万人当たり3.2人で下から数えて3番目の45位。惨（さん）たんたる状況にある。

最先端の医療や病院があり、患者本位で最高の医療を提供しているにもかかわらず、医療全体でみると人不足が明瞭です。何とかしなくちゃいけない。そうしたらありがたいことに、私の母校であり教授を務めた早稲田大学の総長に長泉町出身の鎌田薫さんが就任いたしました。早稲田には医学部がない。「医学部がないのは大学ではない」というコンプレックスをずっと持ち、医学部をつくるのが悲願の大学です。そこへたまたま長泉町出身の方が総長になられたので、「こちらに医学部を持ってくるのはあなたの運命だ」とこの間、言いに行きました。ラブコールですよ。早稲田には理工学部がある。これからの最先端の医療には機械工学が不可欠ですから、両方があればうまくいくのではないかと考えています。実は他にもラブコールしているところはあるのですが、たまたま長泉出身の早稲田大学総長が誕生した。ですから皆さんもよろしくお願いします。

医学部はどうしてもこの地域に入りたい。土地はあります。例えば原町の北の方にある東海大学のキャンパスが空くし、三島の近辺でも探せばあ

ります。これからの大学は都市型です。都会性が必要で、沼津とか三島とかの近辺がやっぱりいいのでは。

医学部はだんだんと焦点をいくつかに絞って、もう後は「打ちてしやまん」で突っ込んでいこうと思っている。ですから援護射撃をよろしく願い申し上げたい。あの東日本大震災のすさまじさを見たら、何でもできるという感じになりました。健康を掲げながら、医師も医学部の学生も少ないというのは深刻な事態でありますので、この点はしっかりやり遂げたいと思っている。

富士山は世界文化遺産 伊豆半島はジオパークに

この地域には韓国語、中国語、英語、フランス語、そしてモンゴル語をしゃべるなどいろんな人が訪れます。言葉はよく通じないかもしれないが、共通するのは訪れた人の目に付く生活の景観です。同時に自然の景観でもあります。景観を大切にしないところはダメです。私は伊豆半島も富士山の麓（ふもと）のこの地域も中途半端だと思います。十分に大事にしているとはとても言えない、当たり前と思っているからです。

富士山が世界文化遺産になるということが、そろそろ射程に入ってきました。去年は山梨県側の都合で1年間、文化庁に提出する推薦書原案を延ばしましたが、7月末に締め切りが来ます。この間に前進がありました。山梨県側の富士五湖は一体となって国の文化財指定に同意し、構成要素になります。富士山の雪解け水が十数年の年月を経て湧き出す柿田川は国の天然記念物になりました。今すぐには構成資産になれないとしても、後から追加できるような資格が清水町にできたことは清水町にとってもいいことです。

一方、伊豆半島は静岡大学の小山真人先生、あるいは尾池和夫・京都大前総長がここはすごいところだということできっと研究されてきて、ここをジオパークにできるということになっています。来年あたりに日本ジオパーク委員会に登録でき、それをベースにして今度は世界のジオパークになれそうです。自然においてはもはや不足なし。富士山は世界文化遺産に、伊豆半島はジオパークになります。

自然景観は素晴らしいが 統一した景観がない

申し上げてきましたように自然景観は素晴らしい、しからは生活景観、都市景観はどうでしょうか。言い換えると看板です。一個ずつの看板、一個ずつの建物に人の目をひくようなものはあっても統一感がない。富士山が世界文化遺産になる以上、富士山の麓の生活景観はスイスを抜くという気構えでやっていただきたい。

スイスには一つの統一した景観がある。後ろのアルプスや湖を上手に生かして建物を作っている。ベランダにはゼラニウムとかを植えて統一した景観をつくっています。

そういうものが残念ながらここにはない。これは市長さんが悪い、町長さんが悪い、区長さんが悪いと言っておきます。ですからそれをやってください。いいところを見に行き行ってやってください。FDA、あるいはチャーター便で、富士山静岡空港を使って行ってください。

どこを見たらいいのか。山のある景観、あるいは海のある景観、そこでどうしたらいいのかというのは見に行かなければ分かりません。自らが人を連れて行ってください。例えば、長野県の小布施という小さな町では「ふるさと創生基金」が配られた時、町長さんが農家のおばあちゃん、おばちゃんたちを連れてフランスに行った。フランスの農園というのは非常に豊かだというのがヨーロッパにおける評価です。そこを見せに行った。そうしたら、おばちゃんたちはパリに行ったら目を白黒させましたけれど、いったん農園に入れば「ああこうすればいいの」などとペチャクチャしゃべり出す。そうして情報を共有して戻ってきてまちづくりにつなげた。言葉では分からなくても見れば分かるものです。

ここから近い沼津港には内港があります。景色の悪さは皆さんも認めるでしょう。そこに高さ5メートルぐらいの狩野川の堤防がある。その内側に歩道をつくるというから驚いた。そこは今、駐車場になっているから、その上につくるべきです。そうすると向こうに御用邸記念公園が見られるし、こちらの千本松原も見られる。そういう感覚、想像力がない。他にも工夫次第で格好のデートコースになれた場所があります。

視察に行くにしても一人じゃなかなか力にならない。計画的に行っていただいて、どうすれば沼津駅から内港までの道をきれいに歩けるようになるか、あるいは長泉町の病院までその道をどう飾るか、白糸の滝までどうしたらいいかということを考える。

そういう人が15人のうち3人いればいいんです。753の原則です。例えば3人がやろうとすると7人が反対し、あとの5人は様子見というかどちらでもいい。最初は賛成が3人で、残る12人が全員やる気がないという状況でも、どちらでもいい5人を一人一人撃破していけば8になり、8対7でひっくり返る。しかも勢いが出る。ですから15人ぐらいの中で3人ぐらい本気でやってやろうという人がいて、753の原則でやっていけば、私はこの地域は変わり得ると思っています。この東部、伊豆半島で女性を含めて地域のまちづくりの委員会をやっていただきたい。既に動き出している地域も承知していますが、一緒にやっていただきたい。

新東名は芸術的な道路 美しい地域景観に生かそう

ほぼ1年半以内に新東名が開通します。今、セメントなどいろんな資機材が東北の方に行っているんで若干遅れるかもしれませんが、1960年以降につくられてきた日本の高速道路で新東名のようには160*₀余が一挙に開通されることは一度もない。沼津のちょっと北の方にサービスエリア（SA）がつくられています。このSAは景色がいい。上りと下りの両方にきわめて美しい建物がそれぞれに個性を表しながらつくられます。そこから見る原町の景色はものすごく美しい。

新東名はもともとスイッチ一つで、入ったところから行きたいところまで行けるようなスマートなモーターウエーにしようということで始まりましたが、残念ながら車と道路の関係はそこまで発達しないまま開通することになります。しかし道路それ自体は芸術です。私は工事現場に何回も行っているんで知っています。カーブの勾（こう）配は最低限とし、景色はよくする。周りの法面の植栽はもともとあったものをちゃんと調べてそれを計画的に植栽するというふうにしています。

伊豆縦貫自動車道はまだですが、私は期成同盟

会の会長です。しっかりやっていきます。他にもやらずにちゃいけない道路がありますが、さしあたって新東名が間もなくできます。ものすごく美しい道路です。そうした美というものを一つのコンセプトにして東部という地域をつくっていただきたい。そして沼津市、三島市、長泉町、清水町、函南町、裾野市さんを合わせるとどうなりますか、50万人ぐらいになりませんか。だからまとめれば、最低限の政令指定都市の条件をクリアできる。すぐにはできないまでも、そのまとまりを作っていく時に併せて美しい地域景観をつくってほしいということをお願いしたい。

私は県の力を基礎自治体に下ろしていきます。同時に県境を越えた地域づくりと取り組みます。例えば富士山と箱根と伊豆半島は観光にとって一帯であり、外から来た人には県境なんて関係がありません。これを一体的にどうつくるか。三遠南信もそうです。山梨との関係ではリニア中央新幹線のルートが静岡市北部にかかります。県境を接する地域を一つにまとめることが必要です。

その中で力を一番入れたいと思っているのが東部であり伊豆半島であります。そのためにはこちらがかまうのではなく、行動を起こしていただきたい。私の方も冒頭で申し上げました医師不足、医学部不足につきまちはもう流線型で突っ込んでいきます。皆さま方にはその意をくんでいただいて東部一体、そして富士山が世界文化遺産になった時には行政的にギスギスしていない、たまたまいも非常に美しい地域になってほしい。健康と観光、そしてここに来れば美しい、桃源郷である。首都圏の人たちにこういうところに住んだ方がいいんじゃないかと思わせる、そういう場の力をつくり上げていきたいと思っています。住んでよし、訪れてよし、産んでよし、育ててよし、理想郷を富士山の麓でつくっていただきたい。

美しく魅力ある地域づくりが 結果としてリターンを生む

東日本大震災の後、伊豆などで30万人のキャンセルがありました。私は県庁の職員に君たちが旅行しなさいと呼び掛けました。インバウンドも必要ですが、外国人観光客の訪日を取り戻すために一生懸命パンフレットを書いて配るということだけじゃなくて、自分たちで助けられるからです。

家族を含めて自分たちで伊豆、東部に行く。私自身もフェリーがあまり使われないというので、清水からフェリーに乗って土肥につき、恋人岬に行ってきました。本当にきれいなところだなと思いました。私はそれを宣伝する。自らも行き、他の人たちも来るといことです。

静岡県はひょっとしたら東日本大震災級の震災があったかもしれない地域ですが、何もなかった。だから私は、今は思い切ってお金を使おうと思っています。なぜそういうことを言うか、個人消費が静岡県は50%、全国は60%です。堅実であり、タンス預金されている。そして振り込め詐欺に狙われ、被害額も大きい。節約して切り詰めることも結構ですが、やはりお金は回さないといけない。

既に690億円切り詰めました。4年間で600億円と言っていたわけですが、事業仕分けとかでいろんなところを切り詰めて3百数十億、人件費合わせて3百数十億、合計690億円も削減した。それを借金の返済に回していません。今、デフレですから。困っている人たちがいっぱいいらっしゃるの、それを使わないといけない。ですから金融機関も国債を買うだけじゃなくて、ちゃんと事業化を支援していただいて実現していく。そのために県とか大学と一体となり、新分野の分散自立型のエネルギーとか、健康、観光、ジオパーク、いろいろなサービス産業におけるクロスカップリングをしていただいて、一体になってそこにお金を回していく。そこにやがて必ずリターンが来る。しかしお金を目的にはしない。いかにこの地域を美しく魅力あるものにしていくかということが、結果としてリターンを生んでいくという考えでやっていきます。この地域の場の力をしっかりくみあげて子々孫々に恥ずかしくないような地域をつくって、この世におさらばするという、こういう考えで今やっていいと思います。

こちらは被災地とはならなかった。だからよりよく生きられる、よりよいものができる。そういう条件に恵まれていますから、この際ですから思い切ってやっていただきたい。憶病根性は捨てて前を向いて、自粛ムードはこれで終わり。前をみて応援をする、自分自身がこういうふうにして頑張れるということを見せる。そうすると、福島で活動できなくなったJFAの男の子、女の子たちが御殿場で一生懸命やっていますが、やがて学校もこちらに移ってきますよ。しかし移させることが